

付着生物ラーバ情報

秋から冬生まれのムラサキイガイ ラーバはほとんど付着しません

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは見られていません。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは11月3日に川内沖で7.0個体/m³見られました。

(3) サンカクフジツボ

ラーバは10月27日に久栗坂沖で0.6個体/m³、11月3日に川内沖で0.8個体/m³見られました (図4)。

(4) その他

アミクサの小枝、キヌマトイガイのラーバ、オベリア類のクラゲは見られていません。

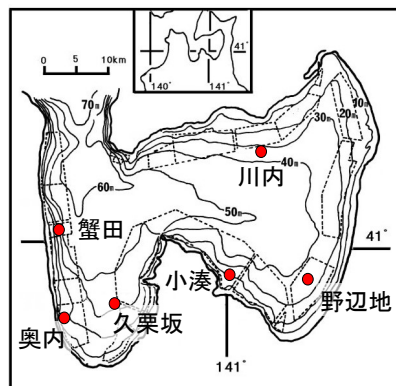


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	オベリア類クラゲ	アミクサ小枝
奥内沖	R2.10.28	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R2.10.27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0
野辺地沖	R2.11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	R2.10.27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	R2.11.3	0.0	0.0	0.0	7.0	0.8	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

単位: 個体/m³

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20℃以下に低下すると産卵しますが、現在、陸奥湾内の中層水温は16~18℃です。

未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、**ラーバが出現する可能性がある**ので、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着**することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイのラーバは4~7月まで出現していたので、稚貝および耳吊り貝に小さい個体が多く見られる可能性があります。ラーバは少し見られますが、これまでの調査で**秋から冬生れのラーバの付着はほとんどない**ことが分かっています。

サンカクフジツボの付着直前のラーバがわずかに見られますが、付着のピークは過ぎています。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになると考えられます。

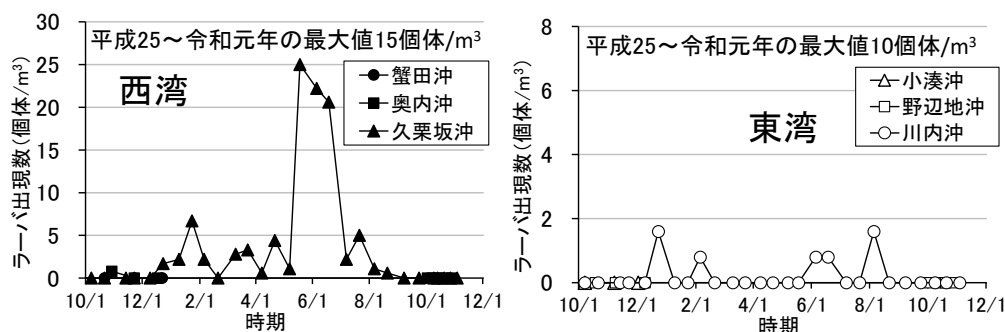


図2 ユウレイボヤ出現数の推移 (令和元年10月~令和2年11月)

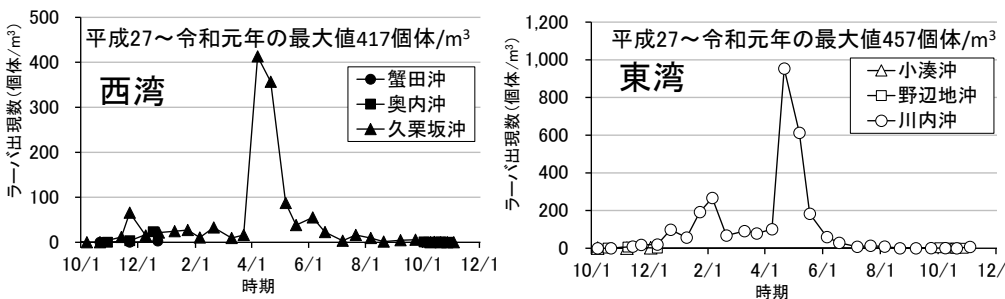


図3 ムラサキイガイ出現数の推移 (令和元年10月~令和2年11月)

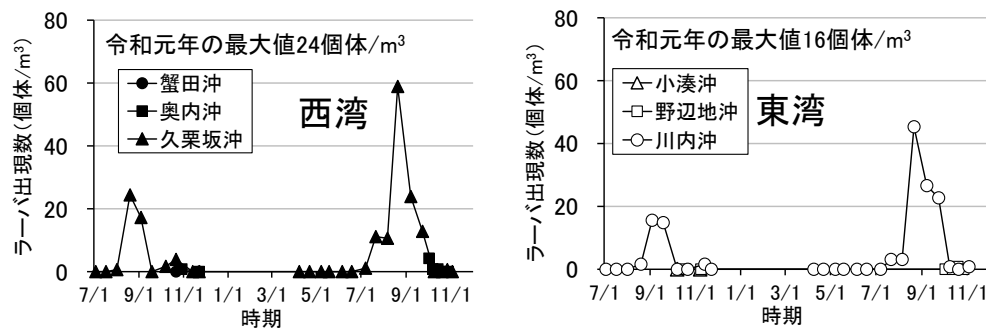


図4 サンカクフジツボラーバ出現数の推移 (令和元年7月~令和2年11月)

